

市原市認知症対策連絡協議会 第8回例会議事録

日 時 平成27年(2015年)10月15日(木) 18時30分～21時00分
場 所 五井会館 4階 大ホール 参加者 67名

1. 小沢義典会長挨拶

2. ミニ講演会

高齢者に係る救急搬送の現状と課題 市原市消防局 消防救急課 大国雄一

1) 市原市の救急出動の現状

平成25年度の市原市は475件で、全国、千葉県と同じ水準である。

今年度の救急出動件数は、平均38件/日で過去最高を更新することを予想している。

2) 高齢者の出動状況

市原市の人口割合で25%が高齢者になっている。救急搬送の半数は高齢者になっている。

3) 救急事案

3事例について考察と課題について検討した。

重要な点は、①本人、家族のコミュニケーション②職員同士、救急隊と施設などとの情報共有③救急要請のタイミング④キーパーソンを挙げられていた。

4) 考察及び課題

情報共有シートやアクションカード作成などの、プランを作っていくことが重要である。

3. 認知症のお役立ちガイドについて説明 市原市役所 高齢者支援課 亀山美紀

1) 認知症ケアパスの説明

重要な点は①本人目線であること②初期が重点である③地区毎に作成する④進化していくガイドである(地区細分化バージョンなど)

2) 認知症お役立ちガイド

用紙の内容を説明。初期対応方法や裏表紙に連絡先があることを説明する。

4. 各プロジェクトに分かれて討議 千葉労災病院 安田 清

プロジェクトごとに、メンバー表、概要を記入し、委員長、副委員長、書記を決める。 ※()内は役員名

- 1) 他分野連携プロジェクト（高地、佐藤、大森）
マップの作成、支援者間の顔が見える関係作りが大切で研修会の参加を推進していく。
- 2) 若年性認知症対策プロジェクト（高橋、朝岡、小野）
若年性認知症のサポート方法などの勉強会を実施していく。
- 3) 認知症サポーターの活動推進プロジェクト（小出、長島）
サポーターをどのように養成してどのように活用していくか？検討していく。
- 4) 在宅介護者を支えるマニュアル作成プロジェクト（菊池、近藤）
困ったことは何があるのか？を明確化し、方向性としてはシニアライフプランの作成や困った時の対策集を作成していく。
- 5) 認知症スクリーニングプロジェクト（山本、渡辺、池田）
初期の段階で地域の中でチェックする機能が必要である。その為にチェックリストを作り、市役所、コンビニ等におく。内容についても将来に希望がもてるしくみをつくる。来年の1月中旬には実施できるよう勧めていく。
- 6) 若宮・辰巳台認知症モデル地区プロジェクト（眞板、床枝）
つなぐプロジェクトに名称変更。潜在的な認知症がある人やリスクが高い人を早期に専門的病院につなぐ。
- 7) 調剤薬局 - 病院 - 在宅ネットプロジェクト（小沢、小室、神山）
服薬支援ネットワークプロジェクトに名称変更。
目標として、在宅にて正しい服薬を実現する。医師に周知したり、かかりつけ薬局は一つにしたり、薬剤師会の協力を得たりして進めていく。
- 8) 送迎プロジェクト（小出、村野、津田）
予防の観点から在宅高齢者の通院、買い物支援。法律的に調べてモデル地

区

の確立を目指していく。

- 9) パソコン家電支援隊プロジェクト（福田）
 - ①認知症高齢者自身が Skype の操作することが可能か？検討。
 - ②今後の課題として、Wi-fi 環境がどのくらい整っているかを調査予定。
- 10) 新規プロジェクト検討プロジェクト（安田、山口、松岡）
 - ①若い頃から外に出る習慣を作ろうプロジェクト
 - ②ケアパスプロジェクト
 - ③ステッカー作成
 - ④認知症宣言
 - ⑤セコムと協働
 - ⑥ボランティア

⑦その他